

2025 年度 一般財団法人 芙蓉協会 事業報告

2025 年度は団塊の世代が後期高齢者となり、保健・医療・介護福祉サービスの需要が急増する中、経営環境の変化に適応し、持続可能な医療提供体制を確立することを課題として取り組んできた。

当法人の事業を広く地域へ情報発信していく中で、14 年ぶりに「法人・病院・健康診断センター・在宅サービス事業部・採用」のホームページを刷新、併せてスマートフォン最適化を図り、より利用者の利便性を高めることができた。広報力を強化することで、保健・医療・在宅の機能を地域の方へ認知してもらい、最新情報を提供することにより、利用者が安心して利用しやすい施設運営の推進に努めていきたい。

2025 年度は各施設における方針達成に向け、職員 1 人ひとりが厳しい経営環境や社会情勢の中においても高い意識を持ち、目標達成に向けて主体的に行動してくれた。その結果、安定した事業経営と継続的なサービス提供を維持することができ、地域医療・保健・在宅を支える重要な役割を果たすことができたことに深く感謝申し上げる。

2026 年度は引き続き地域に必要とされる法人であり続けることを目指す。そして、健康啓発活動や医療・介護サービスの充実を図り、地域との結びつきを強めながら、変化する社会のニーズに対応した持続可能な保健・医療・在宅サービスの提供を推進し地域に貢献していく。

【事業報告】

1. 経営環境の急変にも揺るがない経営構造の構築と経営の安定化

物価高騰や人件費の増加が長期化している中、社会保障制度改革など、急速に変化する経営環境に対応するため、収益構造と費用管理の両面から経営基盤の強化を図り、経営環境の急変にも揺るがない持続可能な経営構造の構築と経営の安定化に取り組んだ。併せて、業務効率化や適正な資源配分を推進し、地域医療・保健・在宅事業を継続的に提供できる体制整備に努めた。

2. 「共に働く仲間」を迎える採用環境の整備と人材育成の推進

新卒者の採用については順調に推移し、2026 年度の運営を支える必要数の内定者を確保することができた。障害者雇用については、CSR (社会的責任) の観点から採用活動を推進し、4 名の採用実績を得ることができた。2026 年度も引き続き、安定的な人材確保と一方で収益と人件費のバランスを見極め、計画的な採用を行っていきたい。

3. 「連携」による“聖隷”ならではの一体化したサービスの提供

法人内の連携では聖隷沼津健康診断センターから聖隷沼津病院へ紹介件数が増加 (前年比+209 名)、保健から医療へ繋ぐことが出来、精密検査受診率の向上に努めた。

また、地域連携懇話会、地域包括ケア連携懇話会、市民公開講座、せいいいメディカルフェスタの開催により、他医療機関、地域住民との連携、更に結びつきを高めることができた。

4. 最高の質による専門サービスの提供

長年の課題であった調剤待ち時間の課題に向け、院外処方化プロジェクトを発足した。関係機関との調整や院内の整備を進めた結果、2026 年 4 月から開始できる体制を構築することができた。これにより、利用者の調剤待ち時間短縮による利便性向上に加え、薬剤師の病棟配置が可能となり、服薬指導や病棟薬剤業務の充実など、より安全で質の高い医療提供につながる体制整備を進めることができた。

在宅では、以前から運営していた看護小規模多機能型居宅介護事業所せいいろ緑町(看多機)に加え、脳血管疾患罹患者・難病の医療ニーズが高い若年者が集中してリハビリができる看多機サテライトを開所すべく、設計、建設、機器選定等の準備、整備を行った。2026 年 4 月開所により、多様化する利用者ニーズへの対応が可能になる。

5. 法人の使命の追求

各事業所において共通することは利用者への安全で質の高いサービスの提供を使命に掲げ、地域のニーズにしっかりと応えられるように多職種が連携し、利用者が安心して利用できる環境整備に努めた。利用者を受け入れるためには職員が健康で働きがいのある環境整備が必要であり、健康経営優良法人(ホワイト 500)に 2 年連続で認定、有休消化率 5 日以上は法人内で 100%を達成するなど、健康経営にも努めた。

2025 年度 聖隷沼津病院 事業報告

2025 年度は急速に変化する医療を取り巻く環境に適応し、持続可能な病院運営の実現を意識した取り組みを行った。入院・外来患者数の拡大を図り、他医療機関からの紹介、救急車受入れを積極的に行った結果、紹介・救急車受入れ件数とも過去4年で最高となった。これは地域医療機関との連携強化に加え、急性期病院として高い信頼と期待を得ている結果である。

また、物価高騰や人件費の増加といった経営リスクに注視し、厳しい経営環境が続く中、経営リスクに注視しながら運営に取り組んだ。取引業者との価格交渉を継続的に実施し、仕入価格の抑制に努め、適正価格の維持に努めた。また、職員の働き方改革の対応として、勤務時間管理の徹底を図るとともに、業務の効率化を推進、超過勤務時間の削減に取り組んだ。これにより、適正な労務管理と職員の働きやすい職場環境の整備に努めた。

このように、厳しい病院経営の中、職員が自発的に課題を捉え、主体的に改善策を検討・実行したことで、大きな経営リスクを負うこともなく、安定した運営を維持しながら年度を終えることができたことに感謝する。2026 年度は行政・他医療機関との協力関係を継続し、利用者が安心し、信頼できる医療環境の構築を目指し、持続可能な医療提供体制の確立に向けた施策を継続していきたい。

【事業報告】

1. 自院の役割を正確に把握し、事業を継続・発展させていくための経営の安定化

昨年度に引き続き、救急・紹介受入体制の強化に向け、内科・外科待機当番日を増やし、二次救急医療機関としての責務を果たすべく受入体制の強化を図った。また、関連施設である健康診断センター、他医療機関からの紹介を積極的に受け、紹介・救急車受入れは過去最高の実績となった。MRI装置の入れ替え工事に伴い、2ヶ月間使用停止していたが、5月より再稼働となり、新機種となったことで検査時間が短縮され、1日あたりの検査実施件数も増加、地域の医療機関からの共同利用にも応えることができている。

2. 「共に働く仲間」を迎える採用環境の整備と人材育成の推進

私たちが提供する医療・ケアの質を確保するためには、人材の確保と育成が不可欠であるとの認識のもと、採用活動の強化に加え、医療職を志す学生を増やす取り組みとして市内の高校を訪問、各職種の見学やインターンシップの受け入れを積極的に実施し、将来を担う人材との接点を拡大することで、持続可能な人材確保の基盤づくりに取り組んだ。

採用においては、多様な働き方を尊重する柔軟な受け入れ態勢を整え、育成面では心理的安全性の高い職場づくりを通じたメンタルフォロー体制を強化した。この好循環を大切にし、職員が『この病院の仲間よかった』と思える組織づくりをこれからも進めていきたい。

3. 「連携」による“聖隷”ならではの一体化したサービスの提供

同一法人内に病院と健康診断センターを併設しているという強みを活かし、両施設の連携強化に注力した結果、予防から治療まで一貫した受診体制を構築することができた。

昨年に引き続き、地域連携懇話会を開催、多くの地域の医療機関の関係者が参加し、本会をきっかけに次年度より三島総合病院 腎臓内科から専門外来、透析センターの診療支援をいただくこととなった。

4. 安全で最高の質による専門サービスの提供

利用者の高齢化が進み、リハビリテーションのニーズが更に高まることを踏まえ、リハビリテーション室の拡充を行った。これにより、急性期から回復期、在宅支援復帰までの切れ目のないリハビリテーション提供体制の強化につながった。

5. 地域における当院の使命の追求

7月にカムチャツカ半島付近で発生したマグニチュード8.7の地震による津波警報が発令され、速やかに利用者を上層階へ安全に避難誘導した。避難者へのケア、食事提供を行い、無事避難対応ができた。あらためて防災マニュアルの見直しと備品の確認、不測の事態に備える体制が必要と感じた。また、10月には初となる「せいいいメディカルフェスタ」を開催し、「地域とつながる、子供たちに医療に興味をもってもらう」をテーマに体験型のイベントを行い、参加者、職員からは次年度も継続してほしいとの意見が多く寄せられ、地域交流、組織活性化の観点から一定の成果を得たものと評価している。

【経営実績】

※達成率：実績/予算、対前年比：実績/前年実績

	前年実績	予算	実績	達成率	対前年比
総収益（千円）	6,951,966	7,261,000	6,901,431	95.0%	99.3%
1日平均入院患者数（人）	195	202	191	94.6%	97.9%
1人あたり入院単価（円）	50,595	50,400	51,487	102.2%	101.8%
1日平均外来患者数（人）	538	568	539	94.9%	100.2%
1人あたり外来単価（円）	18,914	19,300	19,189	99.4%	101.5%
病床稼働率（232床）（%）	84.1	87.1	82.3	94.5%	97.9%

＜地域における公益的な取り組み＞

生活困窮者に対して無料又は低額診療事業を実施

市民公開講座8回開催

千本プラザ赤ちゃんDAY

沼津市夏祭り救護所運営

看護医療職業体験（沼津西高等学校、加藤学園高等学校）

2025 せいいいメディカルフェスタ開催

沼津市SDGsパートナー認定

2025 年度 聖隷沼津第一クリニック（聖隷沼津健康診断センター） 事業報告

2025 年度は、社会的課題である「2025 年問題」に対応し、誰もが長く活躍できる社会の実現に貢献することを目的に、高齢労働者に対する健康チェックと行動変容を促す保健事業を推進した。また、「聖隷らしいサービス」として芙蓉協会の特色を活かし、聖隷沼津病院、聖隷保健事業部、聖隷富士病院との連携を強化、地域・企業・健保の皆様健康診断から医療へと連動するサービスを提供した。

「健康経営の推進」、「健康寿命の延伸」、「健診の質」は今後も事業活動の念頭に掲げ、企業・保険者様から必要とされる保健事業を展開し、選ばれ続ける施設を目指していく。

1. 環境の変化に適応する経営構造の構築と経営の安定化

施設内の受入が飽和状態である為、人間ドックを優先的に受入れ、対前年 126 名増と受診数を増やすことができた。また、要望の強い胃カメラについても、人間ドックオプションにて対前年 84 件増。高齢労働者を含めた健康チェックとしては、体組成計測 684 件（対前年 130 件増）、視野検査 420 件（対前年 112 件増）が達成できた。施設外健診においては、契約金額を据え置いていた 14 市町、既存契約 6 団体について価格交渉を行い、増収に繋げることができている。

2. 「共に働く仲間」を迎える採用環境の整備と人材育成の推進

医師の高齢化が顕著であり、前年からの継続課題である医師確保は今後も対応を続ける。人材の育成では、各職場において専門資格の取得及び更新が行われている。健康支援課は 3 名、放射線課は 1 名、検査課は 3 名が人間ドックや健康診断に関わる専門資格を新規取得できた。また、健康経営を推進するうえで職員の健康管理にも努め、人間ドック 100%受診や超過勤務時間の削減が達成できた。女性特有の健康課題に対しても、発足させた“女性の健康づくり推進プロジェクト”と連動し組織的に取り組んでいく。

3. 「連携」による“聖隷”ならではの一体化したサービスの提供

人間ドック・健康診断や健診外来を受診された方々の事後支援強化のため、聖隷沼津病院との連携を強化した。受診案内や勧奨方法の運用を改善し、医療に繋げることができた。病院への紹介数は、対前年 209 名増となった。精密検査受診率の向上にあわせ、今後も継続的に対応していく。

4. 健康経営ブランディング戦略を活かす最高の質による専門サービスの提供

健康経営のパートナーとして地域企業に対する情報提供（団体別健診結果分析）を 13 社に実施した。専門職のアドバイスが事業所担当者の知識向上にも繋がり、事業所の健康づくり活動の一助となっている。結果として、各団体において精密検査受診率が向上している。あわせて、当センターを利用された方々への健康づくり支援として、特定保健指導や禁煙外来にも注力してきた。特定保健指導 1,088 件（対前年 174 件増）、禁煙外来 14 件（対前年 6 件増）。禁煙外来については、2026 年度内に WEB 対応を導入し、利用しやすい環境を構築していく。

5. 地域から必要とされる保健事業の使命の追求

保健サービスを安心して利用いただくためにも、院内での管理体制等を強化・精度を可視化し、第三者による機能評価認定を継続して受審していく。2025 年度も“ホワイト 500”“ISMS (ISO27001/2022)”“スポーツエールカンパニー”の取得及び更新が達成できた。

【経営実績】

※達成率：実績/予算、対前年比：実績/前年実績

	前年実績	予算	実績	達成率	対前年比
施設内受診者数（人）	81,148	81,385	80,545	99.0%	99.3%
施設外受診者数（人）	37,201	37,565	37,238	99.1%	100.1%
外来受診者数（人）	4,195	4,575	3,785	82.7%	90.2%
単価（円）	13,021	12,946	13,117	101.3%	100.7%

2025 年度 在宅サービス事業 事業報告

(聖隷訪問看護ステーション千本・看護小規模多機能型居宅介護事業所せいれい緑町)

訪問看護事業、看護小規模多機能型居宅介護事業とも専門性や質にこだわり、モデル事業や県の事業に手上げるなど積極的な運営に取り組んだ。これにより新たなニーズの発掘にもつながり在宅事業全体で予算は達成できた。

訪問看護は特定看護師研修協力施設となり、県内外の研修生を受け入れ、定期的な収入となっている。また、静岡県在宅医療に必要な連携を担う拠点事業を開始し、沼津市立病院の病棟カンファレンスにも参加し退院支援を行っている。これにより沼津市立病院との連携も強まり、患者の在宅療養に寄与している。

看多機サテライトは2026年4月に開設する。全職員が協力し体制づくりや宣伝活動を行い、準備が順調に進んでいる。また、看護協会のモデル事業に参加し、重度の若年障がい者を受け入れ、共生型サービスの必要性を実感しニーズ発掘に繋がった。急性期病院の敷地内看多機は新たな看多機のモデルケースとして注目され、日本看護学会での発表や書籍など宣伝する機会を得た。

今後も様々な媒体を活用し、在宅サービス事業の内容と活動を、学校・行政・地域に広く周知することで新たなニーズ拡大や獲得につなげていきたい。そして、それが次の事業展開に繋がり、地域貢献できると考える。

【経営実績】

聖隷訪問看護ステーション千本

※達成率：実績/予算、対前年比：実績/前年実績

	前年実績	予算	実績	達成率	対前年比
医療保険 利用者延べ数 (人)	6,100	5,880	6,397	108.8%	104.9%
単価 (円)	11,897	11,850	11,333	95.6%	95.3%
介護保険 利用者延べ数 (人)	9,458	9,600	10,100	105.2%	106.8%
単価 (円)	8,904	9,000	8,822	98.0%	99.1%

看護小規模多機能居宅介護事業所せいれい緑町

	前年実績	予算	実績	達成率	対前年比
延べ契約者数 (人)	312	312	318	101.9%	101.9%
単価 (円)	403,750	401,000	414,280	103.3%	102.6%

【2025 年度の主な行事】

法人全体

行 事 内 容	実 施 日
新入職員オリエンテーション	4/1～2
監事監査（決算）	5/16
理事会	5/21、3/6
評議員会	6/12
新人職員研修	6/13～14、1/23
2 年目職員研修	7/11
中堅職員研修	5/29、7/25、9/3 10/18～19、12/12 3/6
聖隷福祉事業団による関連法人外部監査	7/9、11/26
スポーツエールカンパニー2026 シルバー認定	1/31
健康経営優良法人 2026（大規模法人部門（ホワイト 500））認定	3/9

聖隷沼津病院

行 事 内 容	実 施 日
喀痰吸引研修	5/23・30、6/13
東部地区大腿骨地域連携パス合同会議	6/17
全体接遇研修	7/29
防災訓練（火災、地震、夜間想定）	8/22、11/21、2/4
医療的ケア教員講習会（実技・筆記試験）	8/29、9/12・19・26、11/14
病院立入検査（静岡県東部保健所）	9/17
地域連携懇話会（沼津リバーサイドホテル）	10/10
電気設備定期点検（A棟、B棟、管理棟）	10/18、11/30、12/20
せいれいメディカルフェスタ	10/19
地域包括ケア連携懇話会	10/21
第 36 回聖隷沼津学術集会（千本プラザ、W e b 配信）	11/22
市民公開講座	8/20、9/17、10/15、11/19 12/17、1/21、2/18、3/18
医療安全研修（集合研修、e ラーニング） ① 医療を取り巻く現状と安全の課題等 ② ポリファーマシー対策について ③ R C A 分析研修 ④ 患者誤認防止について ⑤ 医療被ばくの基本的考え方と患者への適切な情報提供	① 6/1～30 ② 10/7～11/10 ③ 10/24 ④ 1/16～2/8 ⑤ 2/1～3/31
院内感染研修（e ラーニング、実地研修） ① もう一度確認する標準予防策 感染経路別予防策の基本 ② グリッターバグを用いた手洗い実習	① 8/1～ 8/31 ② 10/27～10/31

聖隷沼津第一クリニック（聖隷沼津健康診断センター）

行 事 内 容	実 施 日
教育「バリウム製剤の副作用について」	5/1
教育「健康経営における安全配慮義務の考え方」	5/12
教育「聖隷沼津健康診断センターの実績報告」	6/2
教育「職場巡視から職場環境改善へ」	7/1
緊急連絡網（安否確認システム）訓練	7/24
教育「沼津市防災講座」	8/1
教育「プラチナ職員インタビュー報告」	8/1、10/1、11/4、2/2
教育「地域包括ケア病棟」	10/1
ジャパン・マンモグラフィ・サNDER	10/19
地震（津波）想定防災訓練	12/19
教育「ISMS 研修 I 2025」	12/1～28
教育「メンタルヘルスセルフケア」	1/6
安全運転講習	1/22
火災想定防災訓練	3/6

在宅サービス事業部

（聖隷訪問看護ステーション千本・看護小規模多機能型居宅介護事業所せいい緑町）

行 事 内 容	実 施 日
沼津市立看護学校 講師	5 月
日本看護学会学術集会 講師	6 月
日本看護協会機関誌「看護」6月号 執筆	6 月
静岡県訪問看護ステーション協議会 緩和ケア講師	7 月
特定看護師協力機関静岡県立大学 講師	7 月
リンパ浮腫学会 パネリスト発表	9 月
死の臨床研究会 事例発表	9 月
静岡県看護協会三職種合同交流会 特定発表	10 月
特定看護師の実際と課題 パネラー	10 月
静岡県訪問看護ステーション協議会事例検討会 講師	10～12 月
日本難病看護学会 ポスター発表	11 月
メディメッセージ登壇 2025 実行委員会	11 月
静岡県難病支援災害個別計画 講義	1 月
静岡県看護協会医療的ケア児交流会 講義	2 月
静岡県訪問看護ステーション新卒看護師育成委員会委員	1 年間
沼津市医療・介護推進会議委員	2 年間
沼津市介護保険審査会委員	2 年間
静岡県看護協会看護師職能Ⅱ 委員	2 年間
静岡県在宅医療連携拠点事業 沼津市立病院カンファレンス参加	2 年間